

博物館の方をお招きして土器づくり～6年生（6月9日）

北海道の古い歴史を学んでいくと、「弥生時代」に相当する時代区分が現れることなく、縄文時代の生活様式が発展し、続いていったことがわかります。6年生は、「常呂みどりの学校」を含む壮大なプロジェクトの中で、北海道特有の歴史がなぜ生まれたのか、その歴史の特徴とはどのようなものかを追究していきます。

今回は、博物館の先生をお招きして、「土器づくり」に挑戦しました。

平たくつくった底の形に、ひものような形の粘土を付けることで側面ができ、それを指でつまんで高くしていきます。ひびわれができないようにつなぎ目に気を付けることや、空気が入らないようにすることを教わりました。

「これでいいの?」「できた!!」「おれは縄文人マスターだ!」と言いながら意欲満々で活動する6年生、その中で、「難しいね」「どうして文様を入れるのかな?」「昔の人はすごいな」などなど「気付き」や「疑問」が生まれてきていました。



これから、長い時間をかけて疑問を追究していく中で、先人が築いてきた文化のよさを感じ、ふるさを見つめなおしていく子供たちの姿に期待しています。

「子供たちと共に学ぶ」授業づくりを目指して③

1年生「生活科」の様子です。

学校生活にも慣れ、「附小の森」を縦横に駆け回り、楽しむ子供たちの様子が見えました。

自分が本当に「やりたいこと」を見付け、遊びに没頭する子供たちの姿はこれから出合う様々な学びに向かう力に直結していきます。そのような姿を力強く支え、励ましていけるよう私たちも取り組んでいきます。

